Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

来場歓迎・入場無料

●令和五年度

全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会

◉と　き　令和６年２月11日（日）
午前９時30分開場・10時15分開会

◉ところ　東海市芸術劇場大ホール(裏表紙参照)

主催

公益財団法人　日本吟剣詩舞振興会

東　海　市　芸　術　劇　場

〒477-0031
愛知県東海市大田町下浜田137番地　TEL 0562(38)7030

（最寄駅）　●名古屋鉄道「太田川駅」 南口徒歩０分
※太田川駅は名鉄名古屋駅から特急で約15分

公益財団法人　日本吟剣詩舞振興会

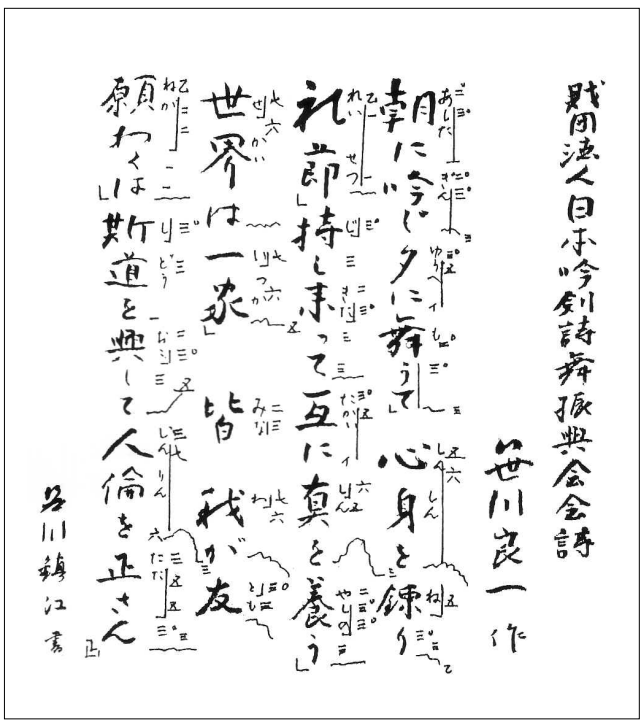
〒105-0001　東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電　話　(03)　６７２１－５９５０（代表）
ＦＡＸ　(03)　６７２１－５９６０

大会次第

一、開会の辞
一、国歌斉唱
一、財団会詩合吟
一、財団代表挨拶
一、大会実施要項説明
一、審査委員紹介

（注意）一、役員集合　八時三〇分
二、審査委員会議　九時三〇分
三、出演者集合　九時〇〇分
（時間厳守）

一、競演「剣舞の部」
一、競演「詩舞の部」
一、審査講評
一、審査結果発表並びに入賞者表彰
一、閉会の辞



吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。

吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。

われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならない。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会
会長　笹川良一
ほか　役員一同

一、基本姿勢
吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。
二、指導者の心構え
吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては権威をもって臨む。
三、師に対する心構え
吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。
四、分家・独立
吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。
五、他流との関係
吟剣詩舞道を行なう者は他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎しむ。
六、吟剣詩舞道の普及向上
吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。
七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力
吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもって日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。

令和六年度全国剣詩舞コンクール指定吟題

☆剣　舞

（幼年・少年の部）

1　客舎の壁に題す　（雲井　龍雄）
2　鞍馬の牛若　（松口　月城）
3　大楠公　（徳川　景山）

（青年・一般の部）

1　奥羽道中　（榎本　武揚）
2　舟八島を過ぐ　（正岡　子規）
3　豊公の旧宅に寄題す　（荻生　徂徠）
4　涼州詞　（王　之　渙）
5　和歌・さえのぼる　（織田　信長）

☆詩　舞

（幼年・少年の部）

1　青葉の笛　（松口　月城）
2　佳賓好主　（佐藤　一斎）
3　和歌・霞立つ　（在原　元方）

（青年・一般の部）

1　厳　島　（浅野　坤山）
2　絶句（江碧にして）　（杜　甫）
3　壇の浦を過ぐ　（村上　仏山）
4　常盤孤を抱くの図に題す　（梁川　星巌）
5　和歌・よもの海　（明治天皇御製）

―令和五年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会開催にあたって―

価値ある伝統芸道の祭典

（公財）日本吟剣詩舞振興会
会長　沼崎　富

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会主催令和五年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会が、本日、ここに盛大に開催される運びとなりましたこと、関係者共々深く喜びとするところであります。本大会のために、早朝からご来場いただきました皆さまに対しまして深く敬意を表しますとともに、いろいろと準備のために奉仕してくださいました大会役員のかたがたに対しましても深く感謝申しあげます。

剣詩舞は、吟詠の調べに合わせて詩歌のこころを心技をもって表現するものであり、わが国の伝統芸道の中でも、今日までの民族精神の形成に大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待をかけられている芸道であります。

当財団の主催する剣詩舞群舞コンクールは、この剣詩舞道の本質を追究し、併せて芸道としての向上を図るとともに、斯道のよりいっそうの振興と普及を目的として、全国的レベルで行なうものであります。

出場者の皆さまには、日ごろの精進の成果を十分に発揮されますことを希望いたしますとともに、ご来場の皆さまにおかれましては、吟剣詩舞道の今日像を正しく理解され、ますます斯道に親しまれますようお願い申しあげます。

最後に、皆さまのご健康を祈念して私の挨拶といたします。

令和五年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会役員

大会会長 沼崎 富

大会副会長 徳田 寿風
早淵 鯉將

大会実行委員
池内 賢二　吉田 魁桜　河野 鶴聲
宮川 紫朋　藤上 翔山　安田 水鈴
入倉 昭星　藤本 誠堂　清水 錦洲
鈴木 吟亮　田中 国臣　遠藤 晃楓
杉浦 英容　古川 壽泉　伏尾 琵城
髙木 法洲

☆審査委員
早淵 鯉將

総合審査委員長
内田 寿子

特別審査委員
藤上 翔山　入倉 昭星　杉浦 英容
上岡 晄壮　見城 星舟　青柳弦太朗
多田 正晃

☆大会特別顧問
山岡 哲山　小幡 神叡　藤原 摂楠　矢萩 鳳祥
武田 禧洲　益中 鵬山　前島 昊龍　松岡 萠洲
野中 秀鳳　八代 輝霊　廣重 光風　日置 彩峰
杉浦 容楓　小野光翠扇　山路 泰洲　横山 寿城
山内 正風　向山 侑吟　山本 賀陽　多田 正稔
多田 正満　八文字剛洲　安永 江悠　青柳芳寿朗
田中 岳藤　山口 華雋　横山 精真

☆大会参与
山本 兼正　黒田 秀月　熊木 雪洲　後藤 月戈
加藤 紫昇　宮島 神鳳　奥村 精曄　齋木 彩染
木村 凰鶴　鈴木 洲玉　星野 洲虹　佐々木翠鵬
池田 嶺煌　上久保雪女　石井 桃苑　田中 竜真
松永 悠楓　鈴木 凱山　石川 春洋　星野 紫虹
志塚 心將　菱谷 彩佑　小林 北鵬　梶 凰映

平成十三年度
〈剣舞の部〉
大岡 史帆
長坂 紗織
荒谷早智子
（愛知）
〈詩舞の部〉
長澤 仁美
松本 幸子
神藤 沙紀
松本 典子
阿部 沙織
（愛知）

平成十五年度
〈剣舞の部〉
大野 晶子
鈴木 宏実
長坂 理絵
（愛知）
〈詩舞の部〉
入倉 仁美
山本 薫
山本 直子
川野 佳代
石川 公江
（愛知）

平成十七年度
〈剣舞の部〉
長澤 仁美
松本 全伸
阿部 沙織
（愛知）
〈詩舞の部〉
原 歩
梶原いずみ
平田 陽子
三宅 絢子
坂本 夏樹
（岡山）

平成十九年度
〈剣舞の部〉
入倉 眸
入倉真之将
入倉慶志郎
（愛知）
〈詩舞の部〉
中川 真生
服部 幸海
服部 怜海
中川 真理
服部 佳海
（愛知）

平成二十一年度
〈剣舞の部〉
永井 聡多
永井 譲
高橋 聖史
（愛知）
〈詩舞の部〉
近藤 聡司
柴田きよ乃
神尾 龍
宮﨑亜由美
蟹 靖子
（愛知）

平成二十三年度
〈剣舞の部〉
大津 知紀
浦野 佳奈
高橋 勝男
（兵庫）
〈詩舞の部〉
今脇 眞弓
浅利 健代
内藤 栄子
高原 玉江
甲本美恵子
（岡山）

平成二十五年度
〈剣舞の部〉
石渡 千紘
長坂恵里子
中川 真生
（愛知）
〈詩舞の部〉
秋久 真希
鈴木恵美子
山本亜矢子
永岡 澄子
松尾 祐子
（岡山）

平成二十七年度
〈剣舞の部〉
鈴木 一人
白石 健太
桜井 京子
（愛知）
〈詩舞の部〉
沓川 桃子
神尾 舞
安藤 優
野田 麗乃
西浦 碧
（愛知）

平成二十九年度
〈剣舞の部〉
上岡 雅治
上岡 隆生
堀木 咲良
（三重）
〈詩舞の部〉
古田 里子
見城 真弥
宇津木三千代
恒松 綾子
山下 聖乃
（静岡）

令和元年度
〈剣舞の部〉
入倉 仁美
堀 由起子
掘 真悠子
（愛知）
〈詩舞の部〉
西浦 輝
建部 花実
野田 璃珠
大日方心海
森 凜華
（愛知）

令和三年度
〈剣舞の部〉
坂上 晃
増井 章高
増井 康二
（兵庫）
〈詩舞の部〉
佐野利恵子
永井 聡多
柴田 譲
柴田 絵梨
吉川 真央
（愛知）

勝部　吼嶺　阿部　吟鳳　中澤　春誠　甕　経風
薦田　南尚　白男川洌風　髙橋　瑞祥　麻生　契春
三橋　吟煌　毛塚　静精　寺嶋　城靖　粟野　電曄
鈴木　海洲　久保田正峰　小林　岳章　寺山　天洲
山下　神燈　小峯　昊苑　丹治　独風　石井　誠紀
長谷部紫帛

〈県連代表〉

澤石　峯洲　梅田　錦翠　阿部　清心　寺嶋　城靖
立身　岳元　舘岡　奥鵬　宮川　紫朋　宍戸　岳荘
髙橋　瑞祥　上田　岳美　黒田　秀月　齋藤　心晃
池田　嶺煌　石井　桃苑　清水　錦洲　毛塚　靜精
田中　国臣　小松　獅剣　杉山　翔鴻　遠藤　晃楓
臼井　寛洲　松澤　天楓　北瀬　岳櫻　渡邉　皇洲
山本　演志　堀口　孝心　吉田　觀心　山田　静将
山口　華雋　渡辺　紘山　芳倉　清峰　古川　壽泉
藤上　翔山　楠部　齋山　髙木　法洲　佐藤　翔風
中林　涼風　徳田　寿風　松井　松聲　原田　瑞祥
濵田　翠峰　河野　鶴聲　安部　洸霊　伊藤　翠鳳
藤本　誠堂　中武　玲星　向山　侑吟　日向美代峰　金城　岳周

◎総務委員長　遠藤　晃楓
同　委員　淡谷　斎峰

◎受付委員長　山本　演志
同　委員　中根　淑容　杉村　征香　辻　由美風

◎進行連絡委員長　斎藤　胡心
同　委員　小池　輝星　鈴木　君星　鈴木　梓心

◎音響委員長　窪田　榮将
同　委員　掛布　篁華

◎司会委員長　酒井　博邦
同　委員　成田　秀桜　安藤　聖楓

◎集票委員長　鳥居　翔鵬
同　委員　松浦　瑞雲　中嶋　天聖

◎賞状作成委員長　浅田　聖風
同　委員　長谷川京楓　尾嶋　榮楓

全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会優勝チーム一覧表

昭和六十年度

〈剣舞の部〉
小野　尊由
八木　保博
瀧　吉治
（兵庫）

〈詩舞の部〉
小野真智子
原　京子
大持恵美子
米倉　啓子
石原　明子
（兵庫）

昭和六十一年度

〈剣舞の部〉
安藤　裕嗣
安藤　由記
堺　友紀
（愛知）

〈詩舞の部〉
杉浦　裕美
天野　利香
中村　里抄
今井喜久子
大日方里美
（愛知）

昭和六十二年度

〈剣舞の部〉
入倉　幸一
城所　紀彰
長谷川勝生
（愛知）

〈詩舞の部〉
亀井　美乃
安藤　裕嗣
堺　友紀
亀井　秀明
安藤　由記
（愛知）

昭和六十三年度

〈剣舞の部〉
広田　光次
村田　栄一
滝川　知昭
（愛知）

〈詩舞の部〉
田中小枝子
岸本　晴美
秋山　愛子
中尾　章子
川口由紀子
（岡山）

平成元年度

〈剣舞の部〉
加司　和博
西村　朗子
山田　満稀
（大阪）

〈詩舞の部〉
石原　明子
小西　悦子
酒井　玉美
松本　房子
桂子
（兵庫）

平成二年度

〈剣舞の部〉
森下　裕紹
伊藤　由康
伊藤　修司
（愛知）

〈詩舞の部〉
入倉　幸一
城所　紀彰
長谷川勝生
鈴木　一人
永井　基靖
（愛知）

平成三年度

〈剣舞の部〉
杉浦　裕美
建部　司
大日方里美
（愛知）

〈詩舞の部〉
藤上　桂子
田中　佳子
中島　祥子
宇野　智美
片山　陽子
（岡山）

平成四年度

〈剣舞の部〉
熊谷　公江
中神　友佳
中野　琴子
（愛知）

〈詩舞の部〉
建部　司
大岡　史帆
山本　智美
石渡　千紘
岡本菜穂子
（愛知）

平成五年度

〈剣舞の部〉
林　季永子
山口加奈子
尾崎　里恵
（愛知）

〈詩舞の部〉
長坂　紗織
長坂恵里子
関　みのり
荒谷早智子
淡谷　亮太
（愛知）

平成七年度

〈剣舞の部〉
近藤　聡司
近藤　敦司
淡谷　亮太
（愛知）

〈詩舞の部〉
森下　裕紹
伊藤　由康
伊藤　修司
中神　友佳
中野　琴子
（愛知）

平成九年度

〈剣舞の部〉
大道　学美
辨天　繁和
多田　和晃
（大阪）

〈詩舞の部〉
蟹江　功子
佐々木京子
大野　晶子
長坂　理絵
鈴木　宏実
（愛知）

平成十一年度

〈剣舞の部〉
伊藤　明
伊藤　武
亀田　功治
（愛知）

〈詩舞の部〉
小野　藍子
田辺富士子
田辺　小泉
田辺　文
原　優子
（兵庫）

◎集計委員長　浅田　聖謙
同　委員　榊原　宝勲　坪井　芳藤

◎接待委員長　酒井　南賜
同　委員　渋谷　南啓　竹本　南優　加藤　南良
　　足立　南笙

◎賞典委員長　和田　彩楓
同　委員　杉山　精鶯　見城星梅月

◎会場委員長　今村　彩邦
同　委員　都竹　楼邦　佐野　東心　斉藤　明昇

◎昼食弁当委員長　武仲　神憲
同　委員　村瀬　郊風　高橋　精愼　赤塚　瑞鳳

◎大会本部事務局
事務局長　大田　直樹
事業課長　大塚　政暢
総務課員　森谷　文子

出演順	氏名	所属	演題	成績
44	吉岡笑子 野方洋子 山本英子 島田千尋 十河禮子	香川	韻次古懐塘錢	
45	松山知子 高見さゆり 川口弥生 田中美紅 藤原美波	岡山	景八戸水	
46	塚田江美子 児玉シズ子 石川明美 玉熊紗朱 石川琳梨	茨城	景八戸水	

予告

●令和五年度全国少壮吟詠家選考審査会

▽とき　令和六年三月十日（日）

▽ところ　梅若能楽学院会館
（東京都・中野区東中野）

●令和六年度夏季吟道大学（予定）

▽とき　令和六年七月十三日（土）
～十四日（日）

▽ところ　勤労青少年水上スポーツセンター
（愛知県・碧南市）

月刊『吟剣詩舞』ご購読のお願い

月刊誌『吟剣詩舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。

購読料は年間五、〇〇〇円（送料込）です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟剣詩舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。

どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

令和五年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会実施要項

(1) この「コンクール」は、わが国の伝統芸道である剣舞・詩舞道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの剣詩舞道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた剣詩舞道人を発掘し、これを表彰して斯道の向上と普及・発展を図ることを目的とし、この「全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会実施要項」に基づいて実施する。

(2) 「コンクール」のチーム編成は左のとおりとする。

① 一チームの編成は剣舞3名、詩舞5名とする。

② 一チームのメンバーは、流派、会派等同じくすること、ただし年齢・性別は問わない。

③ 同一人が二つ以上のチームに属することはできない。

(3) 申し込み条件及び申し込みの方法

財団加盟の流派、会派等に所属する者とし、チーム代表者の所属する県総連に申し込み、県総連が各地区連協に申し込むものとする。

▽各地区連協出場団体数

	剣舞の部	詩舞の部
北海道	0	0
東北	0	0
東日本	7	3
中部	4	6
近畿	6	5
中国	3	3
四国	2	3
九州	3	1
計	25	21

(4) 決勝大会の出場チームは公益財団法人日本吟剣詩舞振興会が主催し、その運営を各地区連絡協議会に委嘱して行なわれた(5)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載されたチーム以外のとび込みは許されない。ただし、地区予選大会を実施しなかった地区については、当該地区連絡協議会の推薦によるものとする。

(5) 地区予選大会の名称とその包含地域

Ⅰ 北海道地区大会（道央・道南・道北・道東・北紋）

Ⅱ 東北地区大会（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟）

出演順	氏名	所属	演題	成績
32	奈良とみ子	香川	韻次古懐塘銭	
	三好和子			
	南清子			
	那須眞理子			
	後藤民子			
33	建部光咲	愛知	黄鶴楼	
	大日方七海			
	柴本佳乃愛			
	建部有咲			
	中川望美			
34	山田幸代	東京	黄鶴楼	
	中山みさを			
	灘部鈴子			
	小谷野弘子			
	栂園はつ			

出演順	氏名	所属	演題	成績
35	河野洋子	広島	黄鶴楼	
	細工抹美子			
	若本未知恵			
	中野節子			
36	岩田侑希	京都	水戸八景	
	塩澤美咲			
	塩田由実			
	相見規子			
	星史子			
37	八木秀美	京都	水戸八景	
	小林範子			
	田畑直美			
	小川古都乃			
	今久保伸二			

出演順	氏名	所属	演題	成績
38	伊藤トモエ	愛知	黄鶴楼	
	柴山和恵			
	神藤てる子			
	鈴木晴子			
	大橋一葉			
39	中嶋将之	福井	黄鶴楼	
	戸田稚菜			
	山口絵理奈			
	前川真実花			
	小北杏奈			
40	日高マユミ	福岡	水戸八景	
	森田夏代			
	森﨑飛悠雅			
	城戸美智代			
	佐々木瑠菜			

出演順	氏名	所属	演題	成績
41	入倉真之将	愛知	韻次古懐塘銭	
	堀由起子			
	三浦正碁			
	堀真悠子			
	堀真大朗			
42	渡邉祐子	静岡	水戸八景	
	渡邉史			
	神田理帆			
	山下満香			
	神田芽依			
43	森川由美子	兵庫	水戸八景	
	福島知津子			
	松岡淑			
	福井広子			
	谷口華子			

Ⅲ　東日本地区大会（山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京）

Ⅳ　中部地区大会（静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重）

Ⅴ　近畿地区大会（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）

Ⅵ　中国地区大会（岡山・広島・山口・鳥取・島根）

Ⅶ　四国地区大会（香川・愛媛・徳島・高知）

Ⅷ　九州地区大会（福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄）

(6)　全国剣詩舞群舞コンクールの地区大会及び決勝大会の出場料は剣舞一二、〇〇〇円。詩舞二〇、〇〇〇円とする。出場料は原則として返還しない。ただし、メンバー全員が幼少年（十八才未満）で構成されるチームについては決勝大会の出場料を免除する。

(7)　決勝大会の審査委員は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会本部常任理事会で選定し、委嘱されたものである。

(8)　出場チーム演舞のルール

Ⅰ　出場順……申込〆切後、厳正公平な抽選で決定したプログラム順とする。変更は特別の事由に基づき、大会実行委員長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競演実施中に限られる。

Ⅱ　演舞吟題……指定吟題の中からあらかじめ届け出たものとし、予選、決選とも同じ演舞吟題とする。なお、その吟は財団本部作成の「令和五年度吟剣詩舞道吟詠集」テープ及びＣＤを使用する。

Ⅲ　衣裳と持ち道具

剣舞……①衣裳は紋付など和服、または稽古衣、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②足袋及びたすきの着用は自由とする。③持ち道具は、武具及び扇子などとする。

詩舞……①衣裳は和服、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②持ち道具は自由とし、なるべく簡素化したものとする。③扇子の型状、色彩などは自由とする。

以上の原則に準じている場合は減点の対象としない。ただ

出演順	氏名	所属	演題	成績
22	鈴木美知子 巣瀬幸子 橋場由喜	東京	大楠公	
23	原光希 原光世 友井川慈	兵庫	大楠公	
24	山田貴己 山田湧太 山田明穂	大分	坂本竜馬	

出演順	氏名	所属	演題	成績
25	星野信孝 熊澤薫 河辺喜隆	東京	大楠公	

「詩舞の部」

出演順	氏名	所属	演題	成績
26	木地谷公子 大和民子 濵渕節子 中尾俊治 中尾イレイン	徳島	水戸八景	
27	武田富久代 荒崎有紀江 荒崎春奈 辻寛子 鈴木桃	神奈川	水戸八景	
28	上岡雅治 上岡隆生 上岡智音 小倉萌 加藤凜	三重	錢塘懐古次韻	

出演順	氏名	所属	演題	成績
29	友井川睦子 友井川泰子 友井川真佐美 大石知頭子 丸山美也子	兵庫	黄鶴楼	
30	三宅美登里 阪口キミ子 井本勝子 磯部伸代 中垣良美	兵庫	黄鶴楼	
31	永岡美智子 松永みどり 安井美智子 水川政重 三角園幸重	岡山	錢塘懐古次韻	

し、原則を著しく逸脱している場合は、減点の対象とする。

Ⅳ　舞台照明……地あかりのみ、バックはホリゾント（白色）使用を原則とする。

Ⅴ　演舞の要領……①司会者が出場チームの番号、代表者氏名ほか、吟題を紹介、一呼吸おいてテープが流される。②出場は上手、下手、板付いずれでもよい。また、そのタイミングも司会者の出場紹介が始まってからならいつでもよい。③振り付けは前奏、後奏を含めた全体でもよいし、詩文のみでもよい。ただし、採点の対象は、舞台出場から退場までの間の出場者の演技及び立居振舞とする。演舞終了時、舞台にある振り付けの場合でも立礼は必要としない。

(9)「コンクール」の審査要領

Ⅰ　審査基準は当財団「剣詩舞コンクール審査規定」を適用する。

Ⅱ　審査の基本方針は、剣舞・詩舞は吟詠の調べに合わせて詩歌のこころを体技をもって表現する芸道である。斯道の本質を踏まえ、芸としての向上を図るうえで不可欠なものは詩歌のこころを正しく理解する素養と、その技術的表現力、芸術的表現力である。この前提に立って審査の項目及び配点を、次のように設定する。

A　技術的表現力（50点配点）

①　基礎技量……30点　②　錬磨度……20点

B　芸術的表現力（50点配点）

①　詩心表現力…30点　②　舞台表現…20点

(10)審査除外（失格）

Ⅰ　遅刻、指定テープ外演舞、演舞放棄、その他審査委員長が失格と認めた場合。

(11)全国大会の入賞チーム数と表彰

Ⅰ　剣舞は一位から五位まで、詩舞は一位から五位までとし、会長賞その他を左記の通り授与する。

剣舞の部　一位　会長賞(持ち回り杯)・金メダル

日本財団会長杯

二位　会長賞・銀メダル

出演順	氏名	所属	演題	成績
10	石原愛美 松山茉莉名 川村優芽	岡山	大楠公	
11	北山遼也 岡崎佑哉 新美璃空	岡山	大楠公	
12	牧清美 松川啓子 加藤真	愛知	吉次峠の戦い	

出演順	氏名	所属	演題	成績
13	小野愛琉真 小野陽葵 小野咲燈	栃木	坂本竜馬	
14	高橋宏徳 高橋英誠 流聖	徳島	吉次峠の戦い	
15	渡邊陽一郎 梯大和 岡孝太郎	長崎	大楠公	

出演順	氏名	所属	演題	成績
16	多嘉良銀太 田口穂 橿山粋生	東京	坂本竜馬	
17	三木優佳 武部理紗 畑島礼奈	兵庫	吉次峠の戦い	
18	藤島永治 犬飼秀文 杭田永遠	岡山	大楠公	

出演順	氏名	所属	演題	成績
19	竹田光一 藤田友里恵 井上能宏	東京	坂本竜馬	
20	美濃部浩一郎 後藤葵 青野恭也	三重	坂本竜馬	
21	友井川友 菅富士子 松本文	兵庫	大楠公	

三位　会長賞・銅メダル
四位〜五位　会長賞

詩舞の部

一位　会長賞（持ち回り杯）・金メダル
日本財団会長杯
二位　会長賞・銀メダル
三位　会長賞・銅メダル
四位〜五位　会長賞

Ⅱ　出場者全員に参加賞を授与する。

Ⅲ　各部一位入賞チームは第五十四回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国剣詩舞群舞コンクール優勝チームとして出場する機会を与える。

(12)　過去の決勝優勝チームメンバーは同部門のコンクールに再出場することはできない

(13)　一般注意事項

①　出場時、刀の目釘の確認。

②　楽屋・ロビー等で刀を抜いてのけいこは禁止する。

(14)　「コンクール」進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ及び八ミリ等の録画は禁止する。

(15)　**入賞チームの表彰時の服装については、着替えた場合にも礼を失しないよう注意を払っていただきたい。**

※「後奏振付の注意点」

コンクール終了時間の遅延をふせぐため後奏の振り付けについては、次の点にご留意いただくことになっておりますのでご注意ください。

一、後奏いっぱいの振り付けの後、あらためて退場姿勢に入った場合は減点もありうる。

二、後奏が終わった時点で、出場者が舞台上にあっても退場途中であればよい。

◎令和五年度
群舞コンクール指定吟題

〈剣　舞〉

1　吉次峠の戦い　（佐々友房）
2　坂本竜馬　（松口月城）
3　大楠公　（河野天籟）

〈詩　舞〉

1　黄鶴楼　（崔　顥）
2　水戸八景　（徳川景山）
3　銭塘懐古次韻　（釈　絶海）

「剣舞の部」

出演順	氏名	所属	演題	成績
1	杉浦きよ乃	愛知	坂本竜馬	
	柴田和都			
	佐々木悠介			
2	吉田陸人	徳島	坂本竜馬	
	吉田泰基			
	吉田哲基			
3	本田亜梨子	三重	吉次峠の戦い	
	小倉典子			
	小倉光			

出演順	氏名	所属	演題	成績
4	鈴木わかな	兵庫	大楠公	
	三好優里果			
	田中美波			
5	小野未紗希	東京	坂本竜馬	
	小西柾輝			
	内藤実樹			
6	古田琉舞	大分	坂本竜馬	
	岡村虹輝			
	阿部相太			

出演順	氏名	所属	演題	成績
7	河村真里	兵庫	吉次峠の戦い	
	桂みか			
	河村恵里			
8	齊藤有貴	兵庫	吉次峠の戦い	
	亀井敦子			
	稲葉友希			
9	五月女益美	栃木	坂本竜馬	
	根岸友美			
	五月女智仁			